

2021年12月20日

国民生活産業・消費者団体連合会（略称：生団連）
エネルギー・原発問題委員会 座長 鈴木 弘治
共同座長 谷茂岡 正子

原発問題を賛否の議論を超え全国民の課題として向き合うために

原発問題～「ファクト」集を改訂

私ども生団連は2021年12月20日、昨年12月発行の「原発問題～「ファクト」集」について、改訂を行いHPにて公開いたします。

世界的に気候変動が問題となり急速に脱炭素に向けた動きが強まる中、原発の活用についての議論が活発に行われています。わが国において、原発はエネルギー供給の面で高効率であり非常に有用とされてきましたが、2011年の福島第一原発事故で厳しい評価がなされ稼働率は激減しました。一方で、原発利用開始の1963年から現在に至るまで発電に伴い排出され続けている高レベル放射性廃棄物の最終処分地は、未だ決定されていません。

原発問題について議論を行う上で、将来の世代のために最優先に議論すべきはこの高レベル放射性廃棄物処分の問題であるにもかかわらず、国内においては賛成反対の二分論に陥りがちであり必要な議論が一向に進んでおりません。こうした状況を憂慮し、生団連は必要な議論を行う上ではファクトの把握が必要不可欠であると考え本冊子を発行いたしました。

生団連は現在の、そして未来の国民生活を守ることを第一に考え、原子力政策に対する賛否に関わらず、「全国民の課題であるバックエンド問題」について、国民的議論を喚起すべくリーダーシップをもって取り組んでまいります。

わが国において原発と向き合っていくための議論の一助として、より多くの方に本資料をご活用いただけましたら幸いです。

以上

